

2024年9月7日

代表選挙立候補届出結果に関する公告

立憲民主党
代表選挙管理委員会
委員長 吉川 沙織

本日午前10時から11時まで、2024年9月の立憲民主党代表選挙に対する立候補届出の受付を行った結果、以下の各氏が立候補の届出を行い、代表選挙管理委員会としてこれを受理いたしました。

したがって、これらの各氏を候補者とする代表選挙を実施し、党员および協力党员ならびに地方自治体議員による郵便投票（インターネット投票を含む）、9月23日に開催される臨時党大会における国会議員および国政選挙の公認候補予定者による直接投票によって、新代表を選出いたします。

1. 立憲民主党代表選挙候補者（届出順）

野田 佳彦・衆議院議員

枝野 幸男・衆議院議員

泉 健太・衆議院議員

吉田はるみ・衆議院議員

2. 公告への添付資料（候補者より提出されたものの写し）

*各候補者の推薦人一覧・政見・略歴

野田佳彦候補者提出資料

推薦人一覧表・政見・略歴

(野田佳彦)推薦人一覧

2024年9月7日

人数	氏名	衆・参議員の別	選管記入欄
1	青木愛	参議院議員	
2	青柳陽一郎	衆議院議員	
3	青山大人	衆議院議員	
4	伊藤俊輔	衆議院議員	
5	鎌田さゆり	衆議院議員	
6	菊田真紀子	衆議院議員	
7	源馬謙太郎	衆議院議員	
8	神津健	衆議院議員	
9	佐藤公治	衆議院議員	
10	重徳和彦	衆議院議員	
11	堤かなめ	衆議院議員	
12	寺田学	衆議院議員	
13	中島克仁	衆議院議員	
14	中谷一馬	衆議院議員	
15	野間健	衆議院議員	
16	伴野豊	衆議院議員	
17	太栄志	衆議院議員	
18	本庄知史	衆議院議員	
19	森田俊和	衆議院議員	
20	笠浩史	衆議院議員	
21			
22			
23			
24			
25			

政権交代前夜

～さあ共に、この国を背負って立とう～

衆議院議員 野田佳彦

■政権政党として、民主主義の危機に立ち向かう

最後の政権交代から十余年。内閣総理大臣経験者として、歴代の政権の所作に対する違和感は、時々指摘してきた。ここに至り、自民一強で培われた「与党の傲り」は、遂に限界を越えたと断じざるを得ない。

民主主義は《6つの危機》に直面している。①臨界点を突破した政治不信、②失われたままの「分厚い中間層」、③意見を違える他者への寛容さの喪失、④人口減少で存立の限界が近づく地域コミュニティ、⑤分断が加速するばかりの国際社会、⑥忖度がはびこる不健全な政官関係。

政治に信なくば、政策は能わず。まずは、政治への信頼回復が最優先の国家課題。裏金がまかり通り、世襲政治家が跳梁跋扈する「古い政治」と完全に決別し、徹底した政治改革でウミを出し切る。立憲民主党こそが「責任ある政権政党」として、改革の先頭に立つ時が来た。

「分厚い中間層の復活」という先進各国共通で直面する困難な課題を筆頭に、多様性を認め合う共生社会づくり、人口減少下での地域コミュニティの維持・活性化、地に足の着いた確かな外交・安全保障政策といった各論での政策を展開し、政官関係の歪みを正しつつ、責任ある変革を主導していく。

■《6つの変革》の実行

変革1. 政治改革：「責任ある政権政党」として、徹底的な政治改革を主導し、自民党のウミを出し切る

自民党主導の不十分な内容の政治資金規正法改正をもって、「政治とカネ」の不祥事を幕引きにすることがあってはならない。より本格的な政治改革の「発火点」となるよう、我が党が更なる具体策を先導し、自民党には出来ない大胆な政治改革のうねりを起こす。

失墜した政治への信頼を取り戻すため、以下の諸点を次期衆院選に向けた党の公約として掲げ、他党とも連携し、国民世論の後押しを力として、実現を目指す。

(1) 金権腐敗政治を終わらせる政治資金規正法の再改正

○立憲民主党案に盛り込んだ「連座制の強化」「企業団体献金の禁止」「政策活動費の禁止」、国会議員関係政治団体から資金移動したその他の政治団体の透明化、政治資金「収入」への外部監査義務化など。

(2) 他党と連携した政治資金の更なる規律強化

○企業団体のパーティー券購入の禁止（まずは徹底的なガラス張り化）、旧文通費の用途公開と残金返納。

(3) 政治家のなり手を多様化する、3つの「被選挙権改革」

○国会議員の「世襲」制限：政治団体（政治資金）の世襲禁止など。

○18歳から立候補できる制度に：被選挙権年齢を現行より引下げ（衆議院18歳、参議院23歳に）。

○クォータ制の導入：パリテ（男女半々の議会）の実現を目指す。

(4) 議員定数の更なる削減

(5) 「インターネット投票」の導入

変革2. 「分厚い中間層の復活」、豊かな暮らしに向けた政策総動員

かつて日本では分厚い中間所得層の存在こそが、安定した成長と活力の源泉だった。格差の拡

大により傷んだ「中間層」の復活を期すことは、いまや先進各国共通のアジェンダ。格差を是正して消費を活性化し、その支えとなる「強い経済」を取り戻す。

また、中間層からこぼれ落ちないようにセーフティーネットを張り直して持続可能で安心できる社会保障制度を確立し、誰もが必要な時に医療や介護、障がい福祉、子育て支援など「ベーシック・サービス」を受けられる社会を目指す。

(1) 「全世代型社会保障」の更なる充実による、将来不安の払拭

- 消費税の逆進性を緩和する「消費税還付法案」に基づき、「給付付き税額控除」の本格的な導入を図る。
- 「全世代型社会保障」を基軸にして、若者世代にも安心と希望を与える社会保障制度のあり方を具体化し、保育・看護・介護等に従事する方々の待遇改善など、個別施策を順次実行していく。
- 岸田政権下の「こども未来戦略・加速化プラン」の妥当性を再検証し、改めて総合的な対案を具体化（「もっともっと良い子ども・子育てビジョン」）。
- 給食費無償化により自治体間格差を解消。
- 就労調整を余儀なくさせる「年収の壁」を意識せず、将来にわたって自由かつ継続的な就労を可能とするよう、短期的な弥縫策ではなく、抜本的な対策を講じる。

(2) 教育の無償化と将来を見据えた教育環境の整備

- 給付型奨学金を大幅に拡充するとともに、大学等の無償化を進める。
- 地域で不足する医療・介護職員、教員、農林漁業従事者等への就業インセンティブ措置として、奨学金の減免措置を検討。
- 小中学校の教員の待遇改善を図りつつ、将来的には小中高の30人以下学級を目指す。

(3) 公正で安心感ある経済財政・金融政策の展開

- 適切なマクロ経済運営の下で、中小企業や中堅企業を含めて持続的な賃上げが継続する環境整備。
- 財政の状況について現実的な推計や提言を行うため、政府から独立した機関を設置。
- 金融政策については、日本銀行の独立性を尊重しつつ、物価や賃金等の実体経済の状況と金融政策の関係性等について、日銀の新たな「アコード」（共同声明）に反映。

(4) 「強い経済」を作るための将来投資の加速

- 野田政権で道筋を付けた「グリーンエネルギー革命」「ライフイノベーション推進」「農林漁業・中小企業を伸ばす政策」などを更に深化。基礎研究などへの研究開発投資を行い、良質な雇用を生み出し、リスクリングを含む人への投資を促すことで、働くことを軸とする安心社会を実現。
- 半導体や生成AIなど先端産業の国内立地を促し、企業のデジタル化、グリーン化を大胆に支援。
- 日本が世界に誇る文化芸術やコンテンツ産業を強化。
- エネルギー政策について、足元での安定供給の確保を大前提に、中長期的には再生可能エネルギーを可能な限り大量に導入し、原発に依存しない社会を実現。
- 国際的な脱炭素化の動きに対応し、ルール・メイキングで優位に立つとともに、自動車・鉄鋼・化学をはじめとする国内産業・雇用への影響を考慮し、公正な移行を実現。
- エネルギー・物価高騰に最も影響を受ける低所得世帯への支援策を充実。社会全体の脱炭素化を推進し、輸入燃料に依存しない、強靱な需給構造を作ることが主眼にした本質的な政策を講じる。
- トリガー税制は、その発動には様々な課題があることも踏まえつつ、将来の揮発油税の暫定税率廃止を含め、地球温暖化対策との関係や関連する税制のあり方全体を視野に入れた議論を進める。

(5) 中小企業を含めた持続的な賃上げ環境の整備

- 持続的な賃上げに向けた環境整備のため、中小・中堅企業の思い切った新分野への投資、デジタル化や省力化投資の支援、価格転嫁のための取引の適正化などを徹底的に進める。そうした施策と併せて、最低賃金時給1500円（全国平均）を目指した段階的な引上げを着実に実現。
- 人手不足対策や働き方改革を進めるとともに、経営者が安心して賃上げに踏み切ることができるよう、社会保険料負担について必要な改革を進める。
- 非正規公務員の待遇改善をはじめ、あらゆる職種において「同一価値労働・同一賃金」を実現し、働く者・生活者の立場に立って雇用の正規化や労働条件向上に取り組む。

変革3. 多様性を認め合う共生社会づくり

- 他者に対して寛容で多様な意見や価値観を包摂する社会、あらゆる差別が解消され、誰一人取り残されない社会を目指す党の取組を着実に進める。
- ジェンダー平等を実現する、長時間労働の是正、結婚・出産・育児環境の整備、ハラスメント禁止強化。
- 障がい者や社会的孤立・孤独、ひきこもりや不登校の方々など、すべての人に「居場所と出番」をつくり、生活・就労・家族支援などを行う。
- 選択的夫婦別姓を速やかに実現。「LGBT差別解消法」と同性婚などを可能とする「婚姻平等法」を制定。
- 入国管理制度・難民認定制度を外国人の人権に配慮した仕組みへ抜本的に見直し、多文化共生を推進。
- 「いのち」を尊重し、犬猫の殺処分をなくすなど動物愛護への理解の深い社会を目指す。

変革4. 官民連携での地域コミュニティの再生、「インパクト国家」の実現

- 人口減少が急激に進み、将来展望が描けない地方に関して、地方自治を強化しつつ、政府としても、都市部、とりわけ東京と地方の格差に起因する諸課題に国家的かつ国土全体の観点から対応。
- 社会課題の解決に、民間企業自身の活力を活かすことも必須となる。「新しい公共」の考え方を更に深化させ、「政府＝公、市場＝私(株主)」の常識の転換を図り、企業や投資家が持続可能な社会に向けた公益目的の投資(「インパクト投資」)を促すための仕組みをはじめ、市場経済の発展と社会課題の解決を両立する、新たな社会システムを構築。
- 地域医療を再構築するため、予防医療の提供を促す仕組みを構築する。かかりつけの「日本版家庭医制度」を導入し、介護など多職種連携を促進することにより、健康増進と生活習慣病予防を図るとともに、余分な投薬を削減し、「健康100年」の福祉国家を実現。
- 地域への移住、特に地方の主力産業＝農業に転職しやすい仕組みをつくり、都市から地方への太い人の流れを生み出して、中山間地域を含む地域コミュニティを再生。「農業者戸別所得補償制度」を復活、食料自給・地産地消・食の安全・鳥獣害防止など。観光やインバウンド支援。食料安全保障を強化。
- 東日本大震災や能登半島地震など各地の被災地復興支援に全力を挙げる。国民の命とくらしを守るため、地域の災害対応力を強化し、速やかな復旧と安心安全な避難体制を構築。建設業界との協力の下、耐震化や河川改修、山林保全、老朽インフラの維持更新など事前防災を進める。

変革5. 日米同盟を基軸とした外交・安全保障政策の展開

- 国際秩序の根幹が揺らぐ中、プロフェッショナリズムに基づく、安定した外交・安全保障政策を展開。「法の支配」に基づく、「自由で開かれた国際秩序」の維持・強化を基調に国益を追求。力による現状変更に対抗し、紛争の平和的解決の重要性を訴えていく。
- 日米同盟を基軸とするこれまでの外交・安全保障政策(経済安全保障を含む)の基本を踏襲。「平和創造外交」の展開により地球規模の課題解決に貢献。人権外交を力強く展開。
- 平和国家として「専守防衛」に徹し、我が国の領土・領海・領空は断固守り抜く(国境離島の適正管理、「領域警備・海上保安体制強化法」の成立、外国資本による土地売買の規制など)。
- 自民党政権下で急増した防衛予算は使途を精査。防衛増税は行わない。
- 沖縄の民意を尊重し、対話しつつ、日米地位協定の見直しや沖縄の基地のあり方について米国と協議。
- 安全保障分野の新領域強化(サイバー、宇宙など)、継戦能力向上。自衛隊員の処遇改善。

変革6. 「政」と「官」の健全な関係の確立

- 予備費の恣意的な使用や基金事業の濫用など、税金のムダ遣いは徹底的に削減。
- 民主主義を支える重要な資源である公文書の作成・管理の適正化を図るため、必要な法改正を行う。
- こうした取組を前提にした上で、政治家にとって、責任ある変革の実行パートナーであるべき官僚たちの専門的知見を最大限に活用する環境を整備する。
- 特に、政治家や官邸への過度な忖度といった事態が生じることのないよう、内閣人事局のあり方も含めた公務員制度の在り方について再検証。
- 働き方改革、待遇や職務環境の改善を進めるとともに、官僚が政治家と共に「国を背負って立つのは自分たちである」との自負を持ち、国民が「日本に生まれて良かった」と誇りを持てる国づくりに邁進できるように、新たな「政」と「官」の関係を確立。

野田佳彦 略歴

- 1957年5月20日 千葉県船橋市生まれ 67歳
- 1980年 早稲田大学政経学部卒業
- 〃 財団法人松下政経塾入塾
- 1987年 千葉県議会議員当選（2期）
- 1993年 衆議院議員初当選
- 民主党国会対策委員長、幹事長代理等を歴任
- 2009年 財務副大臣
- 2010年 財務大臣
- 2011年 第95代内閣総理大臣
- 現在 衆議院議員9期目、党最高顧問

枝野幸男候補者提出資料

推薦人一覧表・政見・略歴

(枝野幸男) 推薦人一覧

2024年9月7日

人数	氏名	衆・参議員の別	選管記入欄
1	石川 香織	衆議員	
2	大河原 雅子	衆議員	
3	おおつき 紅葉	衆議員	
4	神谷 裕	衆議員	
5	近藤 昭一	衆議員	
6	下条 みつ	衆議員	
7	山岸 一生	衆議員	
8	柚木 道義	衆議員	
9	吉川 元	衆議員	
10	渡辺 創	衆議員	
11	石川 大我	参議員	
12	打越 さく良	参議員	
13	勝部 賢志	参議員	
14	岸 真紀子	参議員	
15	熊谷 裕人	参議員	
16	古賀 千景	参議員	
17	高木 真理	参議員	
18	田島 まいこ	参議員	
19	福山 哲郎	参議員	
20	森屋 隆	参議員	
21			
22			
23			
24			
25			

時代の先頭に立つ（政見）

枝野幸男

1. はじめに

いま日本は、大きな分岐点にあります。アベノミクスの金融緩和が限界を迎えたことで、日銀が利上げに踏み切り、株価が史上最大の乱高下を記録するなど、経済も混乱しています。この間、日本の国内総生産はドイツに抜かれて4位になり、一人あたりの実質賃金では、台湾、韓国に抜かれて38位となってしまいました。異常なほどの低賃金が多くを国民を苦しめ、日本の活力を奪っています。翻って政治に目を向ければ、自民党の裏金事件を受けて、国民の政治不信はかつてないほど高まっています。約10年続いたアベノミクス。その次の展望をどう描くのか。国民の根深い政治不信をいかにして払拭するのか。与野党を超えて問われています。今こそ、日本は古い政治に終止符を打ち、新しい時代へと進まなければいけません。

2. 「ヒューマンエコノミクス 人間中心の経済」

「ヒューマンエコノミクス 人間中心の経済」を実現する。わたしは日本の活路はこれに尽きると考えています。「人間中心の経済」とは、すべての政策の中心に「人」を置く考え方です。この「失われた30年」のあいだ、日本は「代わりはいくらでもいる」とばかりに人を使い捨てるような経済のあり方が横行し、政治がそれを後押ししてきました。しかし、今後の日本は、高い付加価値を持つ商品やサービスを開発するため、今まで以上に強力に人に投資し、労働生産性を高めていかなければなりません。同時に、社会保障や公共サービスの充実など、国民の生活を支える公的な基盤の強化も必要です。いずれの分野でも、大切なのは「人」です。多様な個人がその力を最大限発揮できる環境をいかにつくれるか。日本の可能性は、その一点にかかっています。

賃上げ。公共サービスの充実。教育無償化。子育て支援や若者支援。農業や漁業への所得補償。選択的夫婦別姓や同性婚など多様性の尊重。これらはどれも個人の力を最大限に引き出すための政策群です。「すべての国民が個人として尊重され、健康で文化的な生活を営むことができる社会」。これを実現することが、これからの日本の成長の基盤です。あらゆる分野で、政府が一人ひとりを力強く支えることで、日本全体の成長に繋げていく。それがわたしの考える「人間中心の経済」です。

3. 新たな時代の国民政党へ

かつて「自民党王国」といわれた地域でも、裏金事件を受けて、「これではさすがに支えきれない」という声が聞こえてきます。人口減少が加速する中で負担増ばかりが続く。一方で一部の政治家は裏金づくりにいそしみ、納税もしないで開き直る。怒りや呆れるのはまっとうな感覚です。立憲民主党はこれから、こうした国民の声に応えるために、新たな時代の「国民政党」へと進化します。それは、立憲民主党自身が国民の皆さんから「信頼される選択肢」となり、その存在感をもっと高めていくということです。

大都市から農村・漁村に至るまで、立憲民主党がいったい何を目指す政党なのか、地に足をつけて訴えていきます。立憲民主党は、政治腐敗を一掃する政党です。賃金を上げ、公共サービスを充実させる政党です。地域のひとたち、真面目に働く人たち、新しい挑戦をする人たちを応援する政党です。「人間中心の経済」という新しい時代のビジョンを掲げる国民政党です。

新たな政治を求める民意を受け止めるために、政党間の連携も、既存のあり方を再構築します。小選挙区制度である以上、選挙区で最大限一騎打ちの構図を作る。その姿勢は一貫して変わりません。しかしこれまでの野党間の連携については、時代の変化の中で、役割・意味づけが大きく変わっており、これに囚われてはいけません。今まで自民党を支持していた方々も含めての、幅広い枠組みを構築していきます。

4. 信頼できる政権の選択肢へ

2021年に代表を退いて3年、一議員として全国の様々な地域を回りました。能登半島の被災地にも伺いました。たくさんの人たちが置き去りにされている。いざという時に政治がその役割を果たせていない。かつて官房長官として経験した、東日本大震災のことも思い返して、情けなく、申し訳ない気持ちになりました。ここで立ち止まり、足踏みをしている場合ではない。

日本の「失われた30年」の責任は間違いなく、わたしたち野党にもあります。まっとうな政権の選択肢となり、健全な政権交代が定着する環境を作れなかった。その反省と教訓は、わたしの胸に深く刻まれています。その経験が、新しい政治を求める国民の声を受け止めるための出発点です。

今回の立候補については、わたし自身にも躊躇する想いがなかったと言えど嘘になります。しかし、今の日本の危機を前にして、一人の政治家として逃げるわけにはいかない。2011年、東日本大震災の際には、国民から「枝野寝ろ」と励ましてもらいました。2017年には「枝野立て」と背中を押してもらいました。そんなわたしだからこそ果たすべき役割がある。「人間中心の経済」を実現し、一人ひとりに寄り添うまっとうな政治への転換を成し遂げる。その先頭に立ち、次の世代が力を最大限に発揮できるようバトンを引き継ぐ。それが、私に課せられた使命だと考えています。国民の生活が大きな変化にさらされている今、わたしの力と経験、政治家として培った能力すべてを注いで、日本の新しい時代を切り拓く。国民の信頼に足る、新たな政権の選択肢をつくる。その責任をわたしに引き受けさせて欲しい。その想いで立候補を決意しました。

枝野幸男プロフィール

- ・1964(昭和 39)年
栃木県宇都宮市に生まれる。祖父が「憲政の神様」尾崎行雄のファンだったため、同じ読みの「ゆきお」と命づけられる。
- ・1993(平成 5)年
日本新党の候補者公募に応じ、いわゆる落下傘候補として埼玉で立候補。街頭演説一本で「市民の常識が通じる政治」を訴え初当選。
- ・1996(同 8)年
「薬害エイズ問題」に、新人議員として奔走。
- ・1997(同 9)年
33 歳で民主党政調会長に就任
- ・2009(同 21)年
民主党政権が誕生。予算の無駄を洗い出す「事業仕分け」人のリーダーとして活躍
- ・2011(同 23)年
史上最年少の 46 歳で官房長官に就任。約 2 カ月後に東日本大震災と東京電力福島第 1 原発事故が発生。不眠不休で働く姿に「枝野寝ろ」の声が飛ぶ。
- ・2017 年(同 29)年
ネット上でわき起こった「枝野立て」の声に応える形で、一人で「立憲民主党」を結党、20 日後の総選挙で 55 議席を得て野党第 1 党となる
- ・2020 年(令和 2)年
国民民主党、社民党から多くの議員が合流し、新しい「立憲民主党」が結党。再び代表を務める
- ・2021 年(同 3)年
総選挙で議席を減らし代表を辞任。一議員として全国を回り、様々な現場の声を聞く。
- ・2024 年(同6)年立憲民主党代表選挙に出馬。

泉健太候補者提出資料 推薦人一覧表・政見・略歴

(泉 健太) 推薦人一覧

2024年9月7日

人数	氏名	衆・参議員の別	選管記入欄
1	石橋 通宏	参	
2	大島 敦	衆	
3	大西 健介	衆	
4	小熊 慎司	衆	
5	鬼木 誠	参	
6	川内 博史	衆	
7	城井 崇	衆	
8	古賀 之士	参	
9	柴 慎一	参	
10	杉尾 秀哉	参	
11	田名部 匡代	参	
12	徳永 エリ	参	
13	道下 大樹	衆	
14	緑川 貴士	衆	
15	村田 享子	参	
16	森本 真治	参	
17	森山 浩行	衆	
18	吉田 統彦	衆	
19	米山 隆一	衆	
20	渡邊 周	衆	
21			
22			
23			
24			
25			

「人へ 未来へ まっとうな政治へ」

前へ進もう (Go Forward)

国民の命と暮らしを守るため、そして我が国の発展のため、この3年間、ともに汗をかいていただってきた全国の皆様に心から感謝申し上げます。

私は前回の代表就任から、「必ず立憲民主党を再生させる」「必ず次期総選挙で勝つ」との決意で職務に邁進してまいりました。ここまで様々な困難がありましたが、今年4月の衆院補欠選挙の3勝利は、まさに皆様との粘り強い党勢回復の努力が結実した戦いでした。

さて、この代表選の直後には、すぐに一大決戦となる総選挙が控えています。我々は今、決断せねばなりません。総選挙を直前にした執行部の刷新には、現状把握、政策発信、など多くの点での負担や混乱を覚悟せねばなりません。これは危険な賭けです。

政権交代への闘いは既に始まっています。私はこの総選挙に向け、誰が自民党総裁であろうとも闘う準備をしています。総選挙は現体制で闘い抜く。これは党としての最適な対処法です。

政策について。私たちは皆で「人へ 未来へ まっとうな政治へ」を訴えよう。選挙前の新たな言葉が国民に広がるでしょうか。「何か気の利いたフレーズを」と求め続けても、支持は広がらない。これまで訴え続けてきたスローガン、政策を心を込めて総選挙で訴えるべきです。私たちは「人へ（「教育無償化」「非正規の正規化）」」「未来へ（環境・医療・農業・観光・デジタル市場の拡大）」「まっとうな政治へ（政治改革）」を訴えよう。全員が、本気で、全力で訴える。それこそが勝利への道です。

他党連携。現執行部は各党と良好な関係を築いてきました。今後も最大限の努力を続けます。しかし私たちが最も重視すべきは、立憲民主党自身の党勢拡大によって議席を増やし政権交代を果たすこと。選挙前の足し算では成功しないでしょう。まず私たちが自らの政策、姿勢を選挙区で伝えよう。それこそが勝利への道です。

政権交代の一案は「ミッション型内閣」です。我が党が単独政権樹立に至らなかった際には、他党と合意できる政策を協議し、新政権の「ミッション（使命）」として実現を目指します。政治改革はもちろん、国民のためになる教育無償化、物価対策などを必ず推進しようではありませんか。

総選挙はもうすぐです。仲間に恵まれ、全国の同志に支えられて、私はここまで代表を務めることが出来ました。私は立憲民主党をさらに強くします。皆様に心から感謝申し上げ、日本を伸ばすために総選挙に勝利します。皆様のご賛同をお願い申し上げます。

総選挙に向け、すぐやる！

- ① 総力結集 ② 総支部支援 ③ キャンペーン ④ 重要政策 ⑤ 候補者擁立 ⑥ 党運営

① 総力結集

今回の代表選候補の皆様をはじめ、党の顔になる方々に、総選挙の最前線で活動していただきます。党全体による結束した戦いで総選挙を勝利します。

② 総支部への支援

選挙区で自民党を上回るべく、総支部の選挙準備を加速させる交付金を前倒します。

③ 「人へ 未来へ まっとうな政治へ」キャンペーン強化

政策やスローガンは、普段から本気で私たちが取り組む内容との一致が不可欠。

次期総選挙のスローガンは「人へ 未来へ まっとうな政治へ」とする。「人へ（「教育無償化」「非正規の正規化）」」「未来へ（環境・医療・農業・観光・デジタル市場の拡大）」「まっとうな政治へ（政治改革）」を全国各地で、全力で訴えます。

安定した政権運営を行うことを旨に、外交・防衛の「外交安全保障戦略の方向性」金融の「新しい金融政策に向けて」エネルギーの「立憲民主党のエネルギー政策」農業の「農林水産政策大綱」リスキングの「もっとよい学びなおしビジョン」なども、ビラやネットを活用し浸透を図ります。

④ 重要政策

税制は、失われた 30 年で続いてきた格差拡大、所得税・法人税減税と消費税増税に着目し、税制全体での格差是正、再分配機能を立て直します。富裕層の所得税、高額金融所得課税、法人税の見直し、また消費税について、給付付き税額控除、景気低迷時の時限的税率引き下げ、食料品の税率引き下げなどを選択肢として検討します。

憲法については、緊急事態条項などにおいて、参議院のあり方や現行制度の機能や限界など個別の論点と課題も山積していることから、引き続き議論を続けていきます。

⑤ 候補者擁立

3年前、まずは150人の候補者擁立を目指し、次は候補者を増やし、「150議席獲得」を必達目標とし、今年2月の党大会では「200人の候補者擁立」「自公過半数割れ」「比較第一党へ」を目標に掲げました。現在総選挙の予定候補者は190人台に達しました。今後、候補者擁立目標を単独過半数の233人に上方修正します。来年の参院選に向け、選挙区比例区ともに候補者擁立を進めます。

⑥ 党運営（ネット対策強化、登用のあり方、次期代表選の推薦人規定）

ネット対策部局を独立させ、必要な予算を確保します。党全体の SNS 発信の活性化を図ります。

党役職への登用は、選挙区での強さ、黨員集めなど党への貢献度を尊重し、党内グループに関係なく登用します。次期代表選までに、代表選規定における推薦人要件を「党所属国会議員の1割。（200人超の場合は最低20人）」に変更します。

[政策の骨格]

基本コンセプト 「日本を伸ばす」

選挙スローガン 「人へ 未来へ まっとうな政治へ」

「成長 VS 分配」ではなく、立憲民主党は、人への投資、産業の育成、消費の活性化、に前向きに取り組む政党であることを訴えます。

効率主義、規模主義に頼らず、中小零細の担い手、地域経済を大切に、「持続可能性」と「人」を重視します。

安心して新政権をお任せいただけるよう、6つの重要分野に取り組めます。

「国産化」エネルギー自給率・食料自給率の向上

「格差是正」税制による格差是正・消費減税は選択肢の一つ

「堅守防衛」平和を守る対話外交・現実的な防衛力整備

「教育無償化」給食費無償化、学費の負担軽減

「生活向上」賃上げ・介護保育分野などの処遇改善

「安心社会」防災対策・治安対策・社会保障サービスの整備

※その他のジェンダー、人権、憲法、をはじめとした各政策は、現職党代表として作成してきた党の政策を訴えてまいります。



衆議院議員 泉 健太 (50歳)

《現在の役職》

【政 党】 立憲民主党 代表
【衆議院】 国家基本政策委員会 委員

《選挙区》

京都府第3区（京都市伏見区、長岡京市、向日市、大山崎町）

1974年7月29日	北海道札幌市生まれ
1998年3月	立命館大学法学部卒
1998年7月～2000年3月	参議院議員 秘書
2000年3月～	民主党京都府第3区総支部長
2000年6月	衆議院総選挙に初出馬、次点惜敗
2003年11月	衆議院総選挙、初当選、現在8回連続当選
2009年9月～10年9月	内閣府・大臣政務官（鳩山内閣、菅内閣）
2013年9月～16年3月	民主党・国民運動委員長
2016年9月～17年9月	衆議院・議院運営委員会筆頭理事
2017年11月～18年5月	希望の党・国会対策委員長
2018年5月～9月	国民民主党・国会対策委員長
2018年9月～20年9月	国民民主党・政務調査会長
2020年9月～21年11月	立憲民主党・政務調査会長
2021年11月～	立憲民主党・代表

【所属する主な超党派議員連盟】

過労死等防止について考える議員連盟 会長代行
食品ロス削減及びフードバンク支援を推進する議員連盟 会長代行
共同養育支援議員連盟 会長代理
全国災害ボランティア議員連盟 副会長
学童保育の抜本的拡充を目指す議員連盟 幹事長
自転車活用推進議員連盟 会長代理
チャイルドライン支援議員連盟 副会長
子どもの未来を考える議員連盟 副会長
自然災害から国民を守る国会議員の会 副会長
ハンセン病問題の最終解決を進める国会議員懇談会 事務局次長
日本・ウクライナ友好議員連盟 副会長

- ◆妻、長女、長男、次女、うさぎ1羽。京都市伏見区在住
- ◆趣味は料理、DIY、自転車、アウトドアなど

吉田はるみ候補者提出資料 推薦人一覧表・政見・略歴

(吉田はるみ)推薦人一覧

2024年9月7日

人数	氏名	衆・参議員の別	選管記入欄
1	中川正春	衆議院	
2	阿部知子	衆議院	
3	荒井優	衆議院	
4	石垣のりこ	参議院	
5	江田憲司	衆議院	
6	岡本あき子	衆議院	
7	奥野総一郎	衆議院	
8	奥村政佳	参議院	
9	落合貴之	衆議員	
10	川田龍平	参議院	
11	菅直人	衆議院	
12	玄葉光一郎	衆議院	
13	小西洋之	参議院	
14	酒井なつみ	衆議院	
15	櫻井周	衆議院	
16	塩村あやか	参議院	
17	鈴木庸介	衆議院	
18	谷田川元	衆議院	
19	山崎誠	衆議院	
20	山田勝彦	衆議院	
21	早稲田ゆき	衆議院	
22			
23			
24			
25			

吉田はるみが実現したいこと!

教育 x 経済 = 国民生活の底上げ!

来年は戦後80年。戦後の日本は闇市から始まり、幾度となく経済危機から立ち直ってきました。日本を代表する世界的企業も、かつては一人で起業したベンチャー。私たちはいかに困難な状況でも、力を合わせ、何度も立ち上がり乗り越えてきました。

失われた30年と言われる日本経済の低迷、国の予測より10年前倒しで進む少子化、医療・介護・年金制度の不安。たくさんの課題が山積しています。

この課題解決のカギは、教育です。

「教育x経済=国民生活の底上げ」の好循環を作ります。



豊かな教育で未来を拓く

- ・子育て・教育・研究予算を倍増し、教育立国で日本再建
- ・運営費交付金を増やし、世界大学トップ50に日本の大学5校をランクイン（現状：東京大学1校）
- ・国公立大学の無償化
- ・全国小・中・特別支援学校の給食の無償化
- ・18歳まで、博物館・美術館の無償化
- ・「教育ブーストファンド」を立ち上げ、民間企業の投資を促す
- ・保育士、幼稚園教諭、教員の奨学金の返済免除で、教職員を確保
- ・企業による奨学金の代理返還制度を積極推進
- ・イジメ撲滅のための人権教育
- ・令和の遣唐使、留学制度を拡充し、希望する学生が海外で学べるチャンス
- ・発達段階に応じた性教育の推進とSRHR（性と生殖に関する健康と権利）の実現
- ・インクルーシブ教育の推進
- ・学びの多様化学校の拡充など、不登校・ひきこもり支援を促進
- ・発達障がいの支援を拡充

生活者目線の経済再生

- ・全国一律 最低賃金1,500円
- ・食料品を非課税に
- ・女性の給与水準が男性の7割という現状を是正し、賃金格差をなくす
- ・正規雇用を増やし収入アップと雇用の安定

- ・インボイス制度廃止で小規模事業者、フリーランスを応援
- ・8時間労働、週休2日徹底で、ワーク・ライフ・バランスの確立
- ・介護休暇・育児休暇の更なる充実と取得推進
- ・リスキリング（学び直し）に5年で1兆円の予算を事業者でなく、個人に
- ・再生可能エネルギー、再生素材、医療、介護、そして宇宙事業分野を後押し
持続可能な社会に貢献する産業で新たな雇用を生み出す
- ・選択的夫婦別姓を確実に実現
- ・同性婚を可能にする
- ・男女半々の議会「パリテ」の実現を目指し、生活者視点の政治を
- ・女性差別撤廃条約選択議定書の批准
- ・性暴力の被害も加害もなくするため、性暴力根絶法の制定
- ・DV・ストーカー対策の強化
- ・NPOとの協働による「困難を抱える女性」支援の拡充
- ・ルーツ、障がいの有無、性的指向、性自認…あらゆる差別をなくす法整備
- ・誹謗中傷対策、ファクトチェックについてのSNS事業者の運営責務を強化

ケアと協働で命をまもる

- ・公立病院の経営強化、在宅医療・介護体制の充実など、持続可能な地域医療体制を守る
- ・予防・健康づくりの推進
- ・女性の健康課題への対策強化
- ・共生社会の実現と認知症施策の推進
- ・ケアラー（介護や育児をする人、子ども）支援の充実
- ・介護職員の待遇を8万円UPで安心の介護体制を確立する
- ・孤独・孤立対策の推進
- ・助産師などによる伴走型で、安心・安全・幸福な出産と社会全体で子育てを支援
- ・子育て世代向けの居住福祉の充実
- ・男性が家事・育児に参加しやすい環境づくり
- ・虐待を根絶し、子どもの虐待死ゼロの実現
- ・シングルマザー支援の拡充

ひきょうな政治を本気で変える

- ・政治活動の全ての領収書を公開
- ・企業団体献金の廃止で、癒着や利益誘導型から、国民ひとり一人に届く政治へ

再生エネルギーで気候危機を乗り越え、地域に仕事を

- ・ 一日も早く原発ゼロを実現
- ・ 再生可能エネルギーの推進で、エネルギー自給率100%に
- ・ カーボンゼロを実現し、「化石賞」の不名誉を返上
- ・ 地熱の活用推進に向け、技術開発と人材育成に積極投資
- ・ 「環境テクノロジー」「エコ商品」「自然エネルギー」を日本の成長産業に

農業を振興し食糧を国内でまかなえる日本に

- ・ 農業を地域再生の柱に。食の地産地消を進め、地域を活性化
- ・ 農家の戸別所得補償制度の復活と拡充。後継者が育つ農業へ
- ・ 新規就農支援強化で若者が働きたくなる農業へ
- ・ 営農支援の推進
- ・ 農業の脱炭素化（省エネ、農機の電動化、再生エネルギーの活用）の推進
- ・ 食料安全保障を強化し、南海トラフ地震や紛争など不測の事態に対応する
- ・ 政府備蓄米の強化
- ・ 小麦や大豆、畜産飼料の国内生産を拡大。食料自給率を38%から80%へと引き上げる

戦争しない世界に向けて牽引する日本へ

- ・ 憲法9条を守り、核兵器禁止条約を批准する
- ・ 日米同盟を基軸とした現実的な外交・安全保障政策の継続
- ・ 対話外交の深化によって多国間の連携を強化し、地域の安全保障を構築
- ・ 岸田政権が進めた防衛増税について「費用対効果」の視点での検証
- ・ ウクライナやパレスチナ・ガザ地区など各地で続く紛争解決に向けた積極的な外交展開

誰もが活躍できる立憲民主党へ

- ・ 国会議員、自治体議員、党員、協力党員、パートナーズが積極的に情報や議論を交わし政策に反映していける仕組みをつくる
- ・ 常設の立憲カフェを各都道府県にオープンする
- ・ 広報部門の強化
- ・ 党内のDX推進を徹底
- ・ 若者、女性の積極登用
- ・ 第三者委員会によるガバナンス強化



吉田はるみ 略歴・プロフィール

略歴：

1972年、サクランボの産地、山形県河北町の八百屋の長女として生まれる。

民主党(当時)の国会議員候補者公募に応募し政治の世界へ。

2012年、小川敏夫法務大臣の大臣秘書官を務め、政府の仕事を経験する。

その後、2017年、衆議院議員選挙に結党直後の立憲民主党から立候補。

地盤、看板、カバン(お金)、しがらみ無しで 76,283票を獲得するも惜敗。

苦難を乗り越え立ち上がる「おしん」の精神で走り続ける。

2021年10月、第49回衆議院議員選挙(東京都第8区)で 137,341票を獲得。

連続11期目を目指した自民党幹事長経験者を破り初当選を果たす。

その6ヶ月後、2022年6月、杉並区初の女性区長となる新人の岸本聡子候補を

選挙中 二人三脚でサポート。4期目を狙う現職区長をわずか187票差で破る勝利に導く。

その1年後、2023年4月の区議会選挙では立憲民主党から新人5名を含む7名を擁立し

6名を当選に導く。さらに46議席中、女性議員が23名を占めるパリテ達成に貢献した。

2023年10月、臨時国会で岸田首相の所信表明演説に対し、当選1期生ながら質問の機会を得る。

初当選から約3年で、国会質問登壇は45回、提出質問主意書 24本、提案法案 12本。

プロフィール：

- ◆ 立教大学文学部卒業。英国立バーミンガム大学大学院にて経営学修士号(MBA)取得
- ◆ 投資・証券会社の会社員として、東京・シンガポール・ロンドンで働き、中小企業の発展に注力
- ◆ 早稲田大学エクステンションセンター、法政大学兼任講師、青山学院大学非常勤講師
目白大学准教授、神田外語大学特任教授を歴任。専門は、経済・経営
- ◆ 娘はASD(自閉症スペクトラム障がい)
親として娘の発達障がいはどう向き合ったらよいのか悩みながら子育てをする
- ◆ 特技：料理(山形の郷土料理)、カラオケ(演歌、民謡も歌います♪)
- ◆ 趣味：スポーツ(バレーボール)、ヨガ、文楽、歌舞伎
- ◆ 尊敬する人：父
中学を卒業し15歳で家業の八百屋を継ぎ、以来60年間働きづめで家族を支えてくれました
- ◆ 大切にしていること：感謝の気持ち ◆ 好きな食べ物：白いご飯とお漬物！